

BツーC向け「遊び心」が原動力

金型専門 自社商品続々

松本金型 オリジナルにこだわり大ヒット

1976年に創業した松本金型（広島県広島市、松本文治社長）は、自動車部品のプラスチック射出成形機用金型の設計・製造を手がける。燃料の給油口用部品をはじめとして、重量で3トンまでの金型を製造する。同社を創業した松本社長は、自動車整備工場や金型メーカーでの勤務を経て独立した。それまでに型種としてプラスチック射出成形とプレス成形の金型の設計・製造技術を習得しての独立だった。

創業以来順調に業績を伸ばしてきた松本金型だが、08年のリーマン・ショックで大打撃を受けた。金型の受注が激減した。そこで、業績を立て直すためにBツーC（対消費者、商品を独自開発することにした。一般的には金型専門メーカーがいくなり独自にBツーC商品を開発できるものではない。しかし、同社がそれを成し遂げられた大きな理由が、創業前から松本社長が抱いていた自社商品づくりへの熱い思いにあった。

松本社長は自動車整備工場に勤めていた時代、トラック運転手からの注文で特殊な装飾部品や塗装などでトラックの外装を飾る作業を幾度も経験していた。トラック運転手が自らの嗜好で思いおもいにトラックを着飾る。その作業に携わった

現在、同社は耳かき、爪削り、舌ラシ、歯ブラシ、シャンブーブラシ、フエスシールド、いびき止めの七つのアイテムのBツーC商品を開発・製造・販売している。その第1号が耳かきの「みみごち」だ。11年の発売から3年間で100万個とヒットし、現在までに累計200万個を販売するロングセラー商品である。

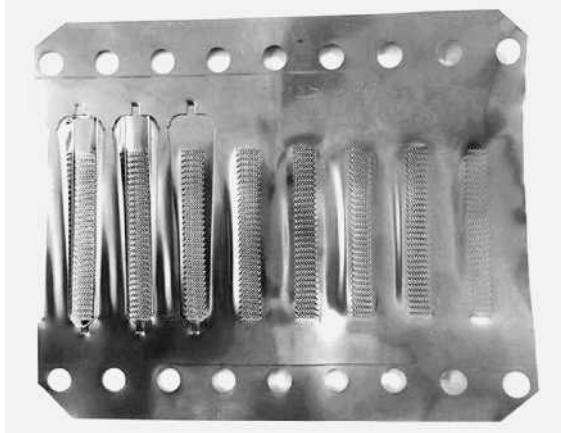
みみごちは本体と2種類のヘッドで構成される。2種類のヘッドには、160本のカギ状極細フラスのヘッドとスリットが入った中空ヘッドがある。カギ状極細フラスは庭掃除用具の熊手のように先端がカギの形状をしている。耳に入るときは抵抗なく挿入され、引き戻す際にカギ形状部が耳垢を効率良く引っかけて排出させる。スリットが入った中空ヘッドも先端部が耳垢をしっかりと掻き出す。



④カギ状極細フラスを成形する金型⑤その金型をセットした状態



「痛くない」耳かき カギ状極細フラスで実現



売れ筋商品トップの爪削りでは、メッシュ構造の刃は順送型の4工程目で穴を開け始め、最終工程でメッシュ構造の刃にフランクングする

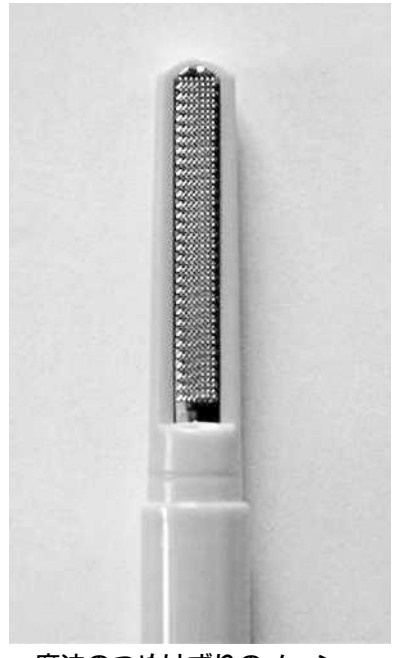
なぜ、第1号商品が耳かきだったのか。当時、松本社長は日頃から耳かきの代替として研磨工具のエアーリユーターを使っていた。工具の形状が耳垢をかき出すのにちょうどよかったからだ。ただ、金属製の工具のため耳を傷つけ痛かった。そのため、かつて東京の下町の小さな工場で痛くない注射針が発明されたという話に感銘を受け、エアーリユーターのように耳垢をよくかき出しながらも「痛くない耳かき」をつくらんと発想した。

みみごちのカギ状極細フラスは、直径5ミリのドーナツ形状のエラストマーに40個のカギが形成され、そのエラストマーが4段階構造で本体に組みつけられている。1段のフラスに40個のカギを形成した理由は、同社で加工する機械のインテックステープルが40分割（テーブルの1周が9度）刻み、されていたから。つまり、現有的設備で最善の加工を試みた結果、40個というカギの本数に行き着いたわけだ。

カギ状極細フラスの金型は形彫り放電加工で製作した。この4段階構造のカギ形状を金型で成形するためには、アンダーカット処理を施さなければならぬ。そのため金型



爪を削るという発想の「魔法のつめけずり」



魔法のつめけずりのメッシュ構造の刃。平板に直径0.03mmの穴を300個開けた

モノづくり雑誌「型技術」から

爪削り メッシュ構造の刃 穴開け加工



型技術 雑誌情報はこちら

現在、同社の年間売上げは5億〜6億円で、そのうち自社商品が1〜4億・1〜5億円で約30%を占める。今後も糸ようじなど新たな商品化を進めていく。社員30人ほどの中小金型メーカーが、これまで自社商品を生み出し続けられる大きな原動力について、松本社長は「遊び心」だと切り切る。自らの発想やアイデアを具現化し、常にそれを楽しむという心が、自社のBツーC商品を開発し続けられる基となっている。

（型技術11月号）

情報の森で迷わないために
Developing Information "Smarts"

情報の森を冒険するために

POINT2
「情報源は？」
受け取った情報が正しいことが大切。自分の意見も聞きながら

POINT3
いろんな視点
たくさんの情報がある中で、何が正しいか、テレビの情報で

POINT4
「その投稿、聞かされた」
わたしたちは、たいてい情報を受け取るように、一人ひとりが

【盾】
身を守って近づこう

【スコープ】
発信者を確認しよう

【ひかり球】
死角（暗がり）を減らそう

【なかま】を集めよう
キミを大切に思ってくれる

「情報」について考える

さまざまな情報が絶えず
大量に行き交うSNS時代は、
まさに「情報の森」。
けがせず冒険するには、
準備が必要です。

2022年3月からの新展示では、
冒険に必要な、
情報と付き合う心構えを
【盾】【スコープ】【ひかり球】
【なかま】として紹介します。

情報・新聞の体験型博物館

日刊新聞発祥の地・横浜にあるニュースパーク（日本新聞博物館）は、現代の情報社会と新聞が果たす役割について、歴史と現代の両面から学べる施設です。取材体験ゲームやオリジナル新聞づくりなどのほか、元記者によるレクチャーや、展示解説もあります。

学校などの団体見学もお待ちしております

ニュースパーク 日本新聞博物館

●開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
●休館日：月曜日・12/29～1/4（月曜日が祝日・振替休日の場合は次の平日）
●入館料（税込）

一般	400円
大学生	300円
高校生	200円
中学生以下	無料

※20人以上の団体は100円引きとなります。事前に電話でお申し込みください。
※障害者手帳をお持ちの方と付添の方1人は無料です。
※校外学習の引率の先生方は、学生・生徒・児童と同じ料金で入館いただけます。

〒231-8311 横浜市中区日本大通11 横浜情報文化センター
Tel.045-661-2040 Fax.045-661-2029 <https://newspark.jp>
●みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口（情文センター口）直結
●JR根岸線・横浜駅地下鉄「関内駅」徒歩10分
●横浜市営バス「日本大通り駅東口」徒歩1分
●車で首都高速「横浜公園出口」から約3分 ※横浜情報文化センター・駐車場・日本大通り地下駐車場をご利用ください

最新の情報はWEBで！ ニュースパーク 検索

カフェ CAFÉ de la PRESSE
ミュージアムカフェ「カフェドゥラプレス」は、「記者が集まるパリのカフェ」をイメージしたフレンチスタイルのカフェです。

マスコットキャラクター
パンぱん